

平成 28 年度 大学等における放射線安全管理研修会

(平成 28 年 8 月 30 日、東京大学弥生講堂)

標記研修会とそれに先だって行われた、大学等放射線施設協議会総会に出席しましたので報告をします。当日配布された資料は遺伝子機能解析部門事務室に保管されています。ご覧になりたい方は事務室にご連絡ください。

平成 28 年度 大学等放射線施設協議会総会

会長挨拶、理事会役員紹介の後、各種報告が行われました。平成 27 年度事業の一つとして、「Radiation Safety – Reference Manual」を HP 公開したことが報告されました。また、名簿やメーリングリスト作成など、相互連絡の便宜を図ったことが報告されました。協議事項については、平成 28 年度事業計画(案)として、排水設備に関するアンケート、「大学等における申請書作成マニュアル」と「大学等における放射線安全管理の実際」の刊行事業が挙げられました。書籍の前者は 5 月に会員宛に送付されており、後者は今回の研修会で配布されました。2 冊とも遺伝子機能解析部門事務室に保管されていますので、ご覧になりたい方はご連絡ください。その他の委員会活動、会報の発行、情報連絡網の整備などが提案されました。

平成 28 年度 大学等における放射線安全管理研修会

<プログラム>

依頼講演「放射線障害防止法関係の最近の動向」

原子力規制庁放射線規制室放射線検査管理官 松本武彦

特別講演「113 番新元素ニホニウムの発見」

理化学研究所仁科加速器研究センター 森本幸司

話題提供とパネル討論「大学等における放射線安全管理の現状とあらたな展開」

1. 放射線利用における安全文化醸成の大切さ (規制室) 宮本大審査一係長
2. 大阪大学における全学的な放射線安全管理 (阪大 RIC) 吉村崇
3. 全国共同利用施設における放射線安全管理 (阪大 RCNP) 鈴木智和
4. 東京大学アイソトープ総合センターの放射線安全管理 (東大 RIC) 桧垣正吾

パネル討論 司会 (長崎大) 松田尚樹

「熊本地震によるアイソトープ施設の被害とその対応」

熊本大学生命資源研究・支援センター 古嶋昭博

「短寿命 RI 供給プラットフォーム」

東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 渡部浩司

「大学等における申請書等の作成マニュアル」2016年改訂版の刊行

同書編集委員長 柴和広

「大学等における放射線安全管理の実際」2016年改訂版の刊行

同書編集委員長 中島覚

「老朽化対策 WG の活動報告」

WG 委員長 渡部浩司

「閉会の辞」

会長 齊藤直

依頼講演「放射線障害防止法関係の最近の動向」では、最近の事故として大阪大学での漏水が取り上げられました。法令報告事象や各種講演等を踏まえ、老朽化した地中埋設 RI 排水管からの漏水の危険性を認識し、自主的に対応策等を検討して点検を実施しており、安全文化の醸成・品質保証に大いに通ずる活動として紹介されました。京都大学での火災については、情報の伝達や公開について課題が挙げられました。火災については、まず規制室に第1報を入れること、その際、規制室との連絡担当者も知らせておくこと（主任者は多忙になり連絡がとれないことが多い）が述べられました。第1報については未確認なものの確認を待たずに連絡することが重要であり、第2報以降で順次確認できた内容を連絡すれば良いことが述べられました。立入検査については、指摘事項の例として、立入り前の教育訓練・健康診断の実施が確認できない、法改正・予防規定の変更があっても教育訓練を省略している、予防規定が実態と合っていない、内部被ばくによる線量の測定が行われていない、被ばく歴の有無について問診していることが確認できない、測定の方法が適切でない、保管の帳簿がない、使用時間を週・3月で集計していない、核種・数量・装置名・使用の場所の記載がない、が挙げられました。

RI等の利用の減少に伴う放射線施設の廃止・縮小が続いており、規制庁として放射線管理等に精通した専門家の減少を危惧していることが示されました。放射線取扱主任者や安全管理要員の知識不足により研究ニーズへの対応ができ

ないことや、安全管理業務を軽視した一部の経営層による職員等の安易な削減が行われている現実があることが述べられました。

現行の管理体制について、従来の学部・研究科ごとの管理体制にとらわれることなく、合理的・効率的な管理体制の検討、従来の学部・研究科ごとの予防規定にとらわれることなく、全学の管理実態を踏まえた予防規定のあり方の検討が行われていることが述べられました。

放射線取扱主任者の資質向上として、定期講習の課目および時間等が主任者等の資質向上に十分なのか再考が必要であり、日本アイソトープ協会等において施設の実態を踏まえた研修の検討が行われていることが述べられました。

特別講演「113 番新元素ニホニウムの発見」

113 番新元素の合成と確定について講演が行われました。

話題提供とパネル討論「大学等における放射線安全管理の現状とあらたな展開」

大阪大学 RIC より、平成 27 年の自主点検で配管からの漏水が発見され、事故対策室からの問い合わせ、自治体への連絡、マスコミ対応、住民からの問い合わせ、など次々と対応が必要となるので、役割分担をしっかりと、迅速に連絡を行う（取り合う）ことが重要との紹介がありました。あらかじめ担当を決めておくのも有効との提言がありました。

大阪大学 RCNP より、全国共同利用施設であるため他機関から研究者が訪れるが、所属機関の放射線業務従事者証明書に教育訓練の記録として放射線発生装置の安全取扱の内容が含まれていない、被ばく歴の有無が空欄になっていることがあり、受け入れに支障をきたすケースがあることが報告されました。

フロアから、技術継承のため放射線担当者定年時には 1 年間の重複雇用をして欲しい、トップにどのように伝えたら良いか、事務の人にも放射線管理に深く関与してもらうために定期講習などを受講してもらってはどうか、等、放射線管理に関わる人材育成の話が出ました。

「熊本地震によるアイソトープ施設の被害とその対応」

4 つの放射線施設の被害状況が紹介され、高層階の被害が大きかったこと、給水系から水漏れが多数発生したので、元栓を閉めるようにすると良い、固定具が非常に有効であったこと、が報告されました。

「短寿命 RI 供給プラットフォーム」では、通常入手できない短寿命 RI を供給する活動について紹介されました。様々な研究用の短寿命 RI（現在 110 核種）の供給が行われているようです。

（中川）